

# アイポス通信

2023年

11月号

～気軽に読めて役に立つマネー情報をお届けします！～

## 特集 生成AIの技術が生み出す驚きの世界

生成AIとは様々なコンテンツを作成できる人工知能の一種で、文章のみならず、音楽やイラストまで指示をすることで作成してくれる技術のことです。広がり始めたのは2022年11月からのことであり、僅か1年の歴史の中で、広がる速度にはすさまじいものがあります。最も有名な生成AIサービスの一つにOpenAI社が開発したチャットGPTがありますが、サービス開始から僅か2か月で1億人が利用者するに至りました。他のウェブサービスで1億人が利用するまでの期間は、Instagramで2年半、Facebook4年半かかっていますから、いかにすさまじい勢いで広がっているかが分かります。OpenAI社の企業価値はチャットGPT公開後、3倍に膨れ上がり今や13兆円。生成AIの市場そのものも、2023年は6兆7000億円、2030年には30兆円規模にまで膨らむと予想されています。「何やらすごい！」という感じは伝わるとは思うのですが、使ったことが無い方には「何がすごいのかさっぱり分からない」というのは正直なところかと思えます。私も、仕事やこうした物書き（本を執筆チャレンジ中！）の効率化に使用してみたのですが、精度がいまいちなところもあり、使い方に苦慮もします。それでも次々と改善されるスピードの速さには驚かされます。さて、どうやってこの驚きを紙面でお伝えするか、悩ましいのですが、右のイラストをご覧ください。誰が書いたものでしょうか？そう、チャットGPTが描いたものです。私のプロンプト（チャットGPTへの指示の事）は「私は48歳の日本人です。42歳の妻、13歳の男子、10歳と7歳の女子の5人家族です。この家族が2024年を幸せに暮らすイラストを描いて下さい。」というものです。お父さんはまったく似ていませんが、凄くありませんか。



## ? マネークイズのコーナー

日本銀行が金融政策の見直しをして、長期金利が一時10年5カ月ぶりの0.955%の水準まで上昇しました。日本以外でも金利が上がっていますが、米国債の10月の長期金利は次のうちのどの水準でしょうか？

- ① 4.5%～4.8%
- ② 3.0%～3.5%
- ③ 1.5%～2.0%



## 今月のお知らせ

旧暦ですが、11月は「霜月」と言われ冬の訪れを感じさせる季節です。しかし今年は11月に入って3連休に全国各地で気温25℃以上の夏日を観測しました。

九州で11月では最も高い気温を記録したそうです。このような温かい秋にも関わらず、我が子の通う小学校や中学校では感染症が流行中。規則正しい生活を心がけ、自分の体は自分で守っていきたいですね。皆様もお気を付けください。



## コラム 自転車、キックボードをめぐる安全事情

自転車は私も愛する日常の足です。また、最近ではキックボードで街中を移動する人も多く見かけるようになってきました。自転車、キックボードをめぐる事情を一緒に見ていきたいと思います。

### ① 2023年4月～ 自転車に乗る際のヘルメット着用が努力義務に

道路交通法 63 条 11 項が改正され、全年齢で自転車の運転者は、ヘルメットをかぶるよう努めなければならないことになりました。背景には自転車事故で頭部への深刻なダメージを受ける自己が多いことがあります。警察庁のホームページによると、令和 4 年の自転車事故の件数は 69,985 件、交通事故全体の件数のうち 23.3%を占めます。特徴としては、自転車の重大事故の相手方は 76%が自動車、そのうち 55%が出会い頭の事故です。その結果、頭をうち大けが、下手をすると死亡に至るのです。ヘルメットを着用している場合の致死率が 25%に対して、非着用の場合は 60%、ヘルメットをかぶっていることで救われる命があります。今年 7 月に警察庁が調査したところ、ヘルメットの着用率は全国平均 13.5%ですが、都道府県によって大きな差があります。着用率 1 位は愛媛県の 59.9%、一方私の暮らす大阪府は 4.2%と全国でも下位の水準です。面倒に思わずに、一度被ってしまえばあとは慣れるのかもしれませんがね。

### ② 2023年7月～ (一定要件を満たす) 電動キックボードは免許不要に

最高時速が 20 km以下、長さ・幅が 1.9m・0.6m 以下、定格出力が 0.6kw 以下の電動キックボードは免許が不要になり、そのうち最高時速 6 km以下のものは歩道の走行が可能です。とはいえ、法律上は「車両」になるため、自賠責保険に加入が義務付けられています。任意の保険はバイク保険、自動車保険に付帯できるファミリーバイク特約を付帯するという方法が挙げられます。



## A マネークイズの答え

答えは①です。コロナ禍が明け始めた 2022 年 2 月以降、FOMC（米国連邦準備制度理事会）は政策金利を段階的に 0.25%~0.5%ずつ引き上げ直近の政策金利は 5.25%~5.5%となっています。二会合連続で据え置き決定となり、そろそろ利上げも終了？という観測が流れています。この間、アメリカの住宅ローン金利は、7.5%もの水準となっており、景気の冷え込みも心配されるためです。とはいえ、住宅ローン 7.5%でも、経済が回る強さがアメリカのアメリカたるところ、強い！です。



## 編集後記

2023 年も終わりが見えてきました。皆様いかがでしたでしょうか？私もバタバタの日々ですが、すること、しないことを整理して、することは来年に向けてできるだけ丁寧にやりきりたいと思います。することの一つに本の執筆作業があります。ひよんなご縁でチャレンジ中。やらなくても日々の生活で困ることはなく、誰に迷惑をかけることもありません。後回しにできますが、自分ですると決めた以上は丁寧にしないとですね。今年最後のアイポス通信、少し早いですが、今年もお世話になり、ありがとうございました。良いお年をお過ごし下さい。

## 発行

一級ファイナンシャルプランニング技能士

C F P 宅地建物取引士 相続コンサルタント 森拓哉

大阪府茨木市園田町 6-1 フィールドア 2 階 (株)アイポス

電話 072-634-3331 メール info@i-pos-co.jp

